

## 汽水域研究会で児島湾の現状等について発表

平成24年10月6日(土)、広島大学で汽水域研究会2012年(第4回)大会が開催された。当研究会では、汽水域の環境保全・修復や持続的な利用について幅広い活動が行われており、今回、「瀬戸内海研究の一断面」をテーマにシンポジウムが行われた(写真1)。当研究所からは、高木研究員が、本県中部の閉鎖性内湾である児島湾の現状と環境改善の取組みについて発表した。その中で、夏季に富栄養化している一方で、冬季には栄養塩不足となり湾口の養殖ノリが色落ちする問題を紹介した。

そのほか、ナカシマプロペラ(株)や、大学の研究者から、児島湾で実証試験中の密度流拡散装置の紹介、児島湾における潮汐の特徴や、メイオベントス(有孔虫)を用いた底質環境のモニタリング方法などの発表が行われた。

総合討論では、地域住民のニーズを踏まえて環境改善に取り組んでいく必要があるといった意見が参加者から出され、活発な議論となった(写真2)。

今回のシンポジウムを通して、多くの方々に児島湾の現状や課題を理解していただいたと思う。環境改善のためには、多くの研究者や地域住民に関心を持ってもらうことが重要である。今後も、シンポジウム等を通して情報発信していきたい。(水圏環境室：石黒)



写真1 シンポジウムの様子



写真2 総合討論の様子

写真出典：

<https://picasaweb.google.com/114560789022558987746/20124?authuser=0&authkey=Gv1sRgCMjR58-fzbjJLw&feat=directlink#>